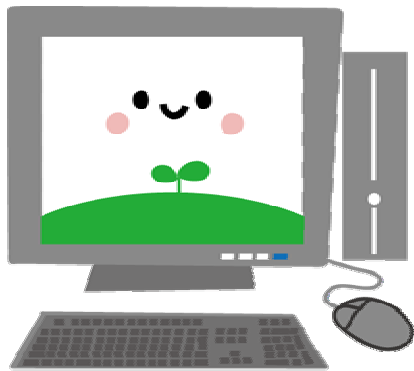


ワーキングヴォイス



NO.11

2010年 1月15日



最近では、社会全体で障害者の方の就業に理解と協力が高まり、さまざまな職場で活躍する姿がみられます。その一方で、まだ多くの障害者が就職を希望しているにもかかわらず、職場の確保が困難な状況におかれています。

障害のある方が能力に応じた職業に就き、その能力を十分発揮し、健常者とともに社会経済活動に参加することは、事業所や社会にとって極めて有意義なことです。

そこで、今月号では障害者の雇用を支える活動に取り組まれている方と、障害者雇用に関する積極的な職場の現場の声をお届けいたします。

【パート1】愛媛県立松山高等技術専門校にて、障害者の職業訓練等を支援されている徳本校長先生と、障害者職業訓練コーディネーターの松岡さんの活動をご紹介します。

「愛媛県立松山高等技術専門校」では障害のある方の雇用を支援するため、さまざまな取組みをされているとお伺いしました。障害者雇用に関するお話をお聞かせください。

障害のある方の職業訓練を行っています。

徳本校長：松山高等技術専門校では、職業能力開発促進法に基づき、ハローワークの受講指示・推薦を受けた方を対象に就職に役立つ公共職業訓練を実施しています。障害者訓練については、知的・精神・発達障害の方々を対象とする職業訓練を行う他、民間専門学校や企業等に委託して、OA関係や介護実務の知識・技能習得、自宅でのe-ラーニングの受講、企業等での作業実習の訓練も実施しています。

また、訓練生の就職先の確保のため、各企業を回るスタッフも配置しております。

松岡さん：私は、障害者委託訓練(実践能力習得科)を担当しておりまして、障害者の職業訓練を受け入れていただく企業・社会福祉法人・NPO法人などの開拓を行いながら、一方で就労希望の障害者の方を専門校以外で募集して、双方をマッチングする仕事をしています。この委託訓練は、障害者の方にとって、地域の多様な就労の現場を体験することで、仕事に対する集中力や持久力、環境に適應する能力や対人能力などを身につける良いチャンスになっております。また企業にとっても雇用前の訓練をすることにより、障害をお持ちの方の作業能力や適性がより分かりやすくなります。

訓練生はそれぞれ皆さん個性がありますし、障害が違いますから、そのことをしっかり見極めながら職業訓練後、雇用に結びつくのが一番良いですね。

障害者の就労の現状について

松岡さん：企業を訪問して感じることは、人事担当者の方の中には、障害者雇用に関心が高い方がいらっしゃるということです。

「法定雇用率を満たすため」障害者雇用を考えたければならないということもありますが、それとは別に社会貢献の一環として、障害者雇用に取り組もうという姿勢を感じます。

徳本校長：しかし障害者を取り巻く雇用環境は、依然厳しいのが現実です。企業側の理由として「経済情勢の悪化で従業員の増員が困難」「障害者の雇用は、戦力ではなくハンディとなる」「どれだけの能力があるのか」「障害者の適性に合った仕事を用意できるか」「何かあった時にどうすればいいのか」などが理由として挙げられています。障害者の側では、就労経験が乏しいため「自分がどの仕事に向いているのか」「仕事に耐えられるか」といった不安があります。

松岡さん：求職活動をした際、自分が希望をする会社に就職できなくて悔しいことやもどかしい思いをした経験は誰にでもございますよね。障害を抱えて求職中の方も、同様の思いをしております。ましてや病気や突然の事故で障害を抱えた方は、これまでの生き方が一転、人生が変わる経験をされます。そこから障害を受け入れる強さ、前向きな姿勢には、

本当に頭が下がる思いです。加齢に伴う病気や身体機能の低下などを考えると、障害者も健常者も変わりはありません。

障害のある方は、仕事ができるようになるまで時間はかかるかもしれませんが、ちょっとした工夫で能力や適性に応じて十分働くことができる方がたくさんいらっしゃいます。もちろん、障害の度合いに対して若干の配慮は必要となります。

障害者が仕事に就くことは、収入を得るだけでなく社会に貢献、参加するという大きな意味があります。健常者の方がしている仕事の中には、障害者ができる仕事がたくさん含まれております。

徳本校長：障害者を雇用すると職場が変わります。これは聞いた事例なのですが、発達障害の人は仕事の指示を細かく具体的にしないと分かりません。今まで、なあなあで済ませさせていたところが、障害者の方にレベルを合わせ細かく決めることにより、他の人にも仕事の内容が分かりやすくなります。その結果、仕事の無駄がはっきりと見えてきて業務全体の効率化につながることになり、さらに一緒に働く障害者の方のフォローをしようという意識が高まってきて、コミュニケーションが自然と取れるようになるようです。

委託訓練についてご理解とご協力をお願いします。

松岡さん：これは昨年、脳性まひで身体障害者1級の方が、社会福祉法人で初めて清掃の委託訓練をした時のお話なのですが、面接の際、施設の方に「訓練は受け入れますけどその後の雇用は難しい」と言われました。その方は、スリッパから運動靴を履き替えることによりかなりの時間を要したため、正直、就職は厳しいとっていました。

しかし、訓練を開始して一週間もたたない内に、施設長さんから「彼のものすごく一生懸命がんばっている姿を見て、私たちは感動しました。私たちも一生懸命やならなきゃいけないと、彼から元気と勇気をたくさんいただきました。」と連絡がありました。そして1カ月の訓練を無事終えて、就労されました。このように、実際に訓練してみないと分からないことがあります。

私は、ハローワークや関係機関、就労支援者との連携、そして事業主の理解と協力を得ながら「一人でも多くの方が就職できるように、障害者雇用の一層の進展を図るため、きめ細やかな支援をしていきたい」と考えております。委託訓練は、お互いを認め合う機会と理解していただき、障害のある方が少しでもスムーズに就労できるよう、これからも全力で取り組んでいきたいと思っております。

これからの課題として

徳本校長：障害者の雇用は、現場担当者の方のご理解も重要です。経営者の方が障害者雇用に積極的にも、現場の方が受け入れに反対することがあると聞いています。「障害者とのどのように接すればいいのかわからないから扱いに困る」といった気持ちがあるのでしょうか。

企業の持っている障害者のイメージを、いかに変えていただくか！意識を変えて、ギャップを埋めてほしいという一つのきっかけが、12月16日に行った「職場で困っている人への対応」のセミナーです。まず、セミナーで取り上げました発達障害がどういったものなのかを理解していただくことが一つのステップです。そして、これをもとに職場実習を行い、その能力や適性を判断してもらって、認めていただければ雇用という次のステップにつないでいくと思います。

障害者を分かってもらうためには、こういったセミナーを開くなどきっかけが必要となります。障害者とのコミュニケーションがあるので見学に来てくださいと言って足を運んでくれるのは、既に障害者を雇っていたり、障害者雇用を理解のある企業です。それ以外の企業にもぜひとも来ていただき、一人の人材として見て欲しいと思います。実際に一緒に話したり、見ていただくのが一番理解が深まります。

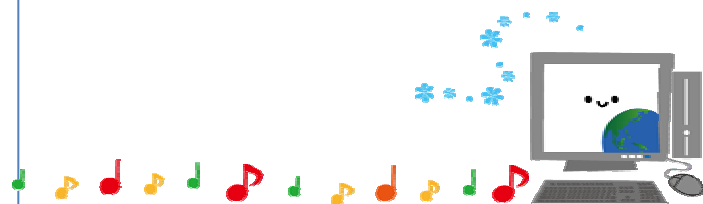
発達障害者の方は、今まで気持として一人で生きてきましたから、あまり人との触れ合いというものがなかったので、人との付き合いに苦労をしました。その一方で交流をしたいという気持ちがありますので、交流の場をいかに設けるかがこれからの課題となります。

障害者の仕事を見てもみると、なかなかオールラウンドにはいきません。そこで企業の方には、今の仕事に当てはめるのではなく、その人に合った仕事を組みなおすなど工夫をしていただき、その能力を活用していただきたいと思っています。

松岡さん：障害者雇用が順調な事業所をみると、社員同士が連携をとり、障害者の能力に着目し、気持ちよく働ける職場づくりを実践されているように見えます。

これは障害者雇用に限らず、企業にとって「あたりまえ」なのではないでしょうか。

障害のある方も健常者の方も、皆さん一緒に仕事をしているのが普通の職場になるように、社会全体が支え取組んでいけたらいいですね。



【パート2】障害のある方を雇用された松山ヤクルト販売(株)の塩出社長と、東本センターの窪田氏のお話をお届けいたします。

雇用のきっかけをお聞かせください。

窪田氏：私の営業先である「社会福祉法人きらりの森」の方から、精神障害者の方の職場体験を受け入れてくれる職場を探していると言われ、就労支援のお役に立てればと思い社長に申し上げたことがきっかけです。

今、心の問題が結構取り上げられていることから、会社として、仕事を通じて何か役にたてたらいいのではないかという思いがありました。

塩出社長：私は、青年会議所やロータリーの活動でかねてより障害者支援のことに興味がありましたが、一般的に障害者の雇用は工場部門の生産ラインが多いため、販売業であるうちでは難しいとも思っていました。また「きらりの森」に関しては施設の立ち上げの際、個人的に応援をしたことがあるのと、窪田君も営業だけでなくボランティア活動を通じて先方のことを知っていたので、それだったら障害者の職場体験をやってみようということになり、岡本さんを迎え入れることになりました。

こうして、たまたま偶然と必然が重なった形で職場体験が始まり、就職に結びついたのは、本人の努力はもちろんのこと、当社の窪田君が障害者雇用に熱心な男だったからということでした。

どのようなお仕事をされていますか？

窪田氏：岡本さんは、大学を出てからここに来るまで、全く仕事をしたことがなかったので、何をすればいいのかわからないという状況でした。そこでまず、職場環境や業務に慣れてもらおうと、東本センター内での仕事の手伝いをしていただくことから始めました。業務内容は、パソコンの打ち込み作業、営業活動としてチラシの配布のポスティング活動、センター内のゴミの片付けをしてもらいました。そして今は、77歳以上の独り暮らしのお年寄りの方に商品をお届けをする仕事も任せております。

塩出社長：ヤクルトは、松山市からの委託によって、一人暮らしのお年寄りの安否確認の活動「愛の訪問活動」を行っておりますが、高齢者とのコミュニケーションをとるこの仕事を彼に任せるのは、正直最初は無理だと思っていました。しかし独居老人の方との対話はあまり急ぐ必要はないのと、ゆっくりお話をすることができるおかげなのか、今ではお年寄りの友達も出来つつあります。

窪田氏：ここに来た当初は、何をしたらいいのかわからず、ただ立っていることがあったのですが、今は自分で考えて仕事をされています。

岡本さんはパソコン業務が得意分野なので、飲み込みが早く、間違いはほとんどなくて正確です。ザウルスという携帯端末を使って商品の入力作業をお任せしているのですが、50種類の略式のコードを2週間で覚えました。記憶力がいいというより、真面目なんですね。

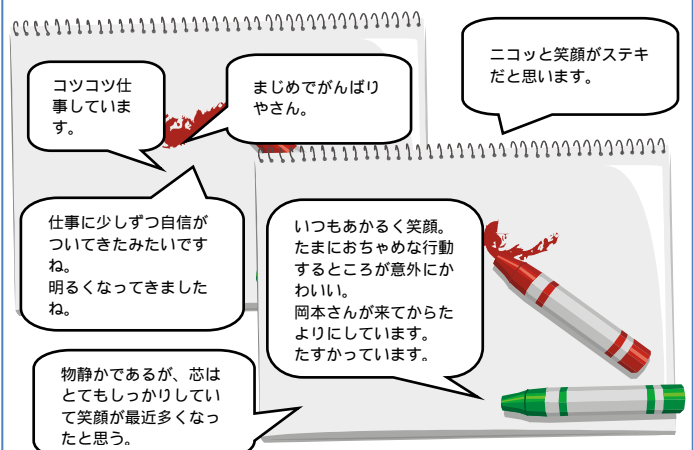
塩出社長：能力については、パソコンをまかせると非常に几帳面なデータ処理ができることから、パソコンの方面でできる仕事が増えればいいと思っています。

職場の変化などはございましたか？

窪田氏：岡本さんは、職場実習を通じて社会と接することにより、自信をつけていると思います。これからもその積み重ねの経験をすることによって、適性や働く上での楽しみが出来てきて、どんどん変わっていきけるのではないのでしょうか？実際に、岡本さんがここに来てから8カ月が経ちますが、センターの人もみんな岡本さんの顔が変わったねと認めています。社会は様々な構成員で成り立っていて、障害のある方と知り合わなければ、分からないままで終わってしまいます。

塩出社長：我々が彼に教えることもありますが、岡本さんからこっちも学ぶことがあります。几帳面さとかまじめさといった点では、我々普通の社員より上かもしれませんし、お互いさまですよ。

窪田氏：先日、東本センターは定例会で、いろんな人の良いところを探し出し、紙に書く活動をしました。岡本さんの仕事をしている姿を見て、皆が感じるものがスケッチブックに書かれていますので、その文面を見ていただくのが、一番分かりやすいですね。障害のある方と一緒に働き努力することが、周りの社員にとっても自己評価や励みにつながる部分があり、勉強をさせていただくことが多いのではないのでしょうか。



今後の期待・思いをお聞かせください。

塩出社長：この活動は、センター内のモチベーションを上げお互いを認めあおうと、窪田君のアイデアで作りました。岡本さん自身も前向きになってきており、先日の土曜日は忘年会に出席したので、そこで皆に社員紹介をしました。これからも職場の行事に積極的に参加してもらいたいですね。

障害者雇用を考えている企業へのアドバイスをお願いします。

窪田氏：私は、岡本さんを全然普通だと思っていたので、精神障害者の方の雇用が大変だという認識はありませんでした。それに健常者の中でもこだわりが強すぎる方がおりますので、精神障害については何かのきっかけ、ほんのちょっとの違いで、人は誰しもそうなる確率があると私は思います。岡本さんの場合はただちょっとズレただけなので、それを元に戻す、普通にするという力になればいいなと思います。私は、心の部分に関しては、既に独学で心理学の書籍を読んだり、あとは講演を聞いたりしていましたので、岡本さんを受け入れる際に、改めて勉強をすることはしておりません。

障害者の方への仕事の取り組みは、人によってもたぶん違うと思うのですが、現場で職場実習をして本人の良さを引き出すのが一番だということです。そのためにまずは、現場のスタッフの了解を得ることが大切です。

束本センターで彼を迎える場合には「最初はどんな人が来るのか分からない、男性だと怖いかもしれない。」というのが少々ありました。しかし、憶測ではなく実際に会って話さないとその人のことは分かりません。一週間でも1カ月でも訓練に来て、実際に一緒に働くのが一番いいんじゃないでしょうか。人は誰しも役割を持って生まれてきているので、その人の良いところを生かして、仕事と上手くマッチングできるのが職場実習の良いところです。

障害者雇用で積極的なユニクロさんの例にもあるように、一緒に働くスタッフは障害者のスタッフをカバーしようと、チームワークの意識が高まって行き、その結果店舗全体の雰囲気は向上し、サービスの質も上がっていると聞いています。

職場実習をされる方に対しては、やる気があること、一生懸命取り組むこと、自ら職場にとけこむ努力を惜しまないことです。お客様として研修をするのではなく、自分も職場の一員だと認識することが、周囲の社員との距離を早く縮めることに有効だと思います。

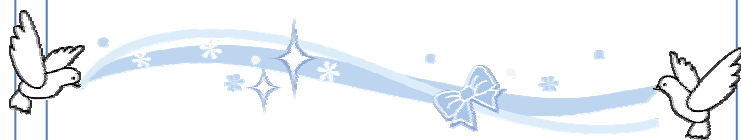
塩出社長：岡本さんの採用については、本人の就労の意思を本社で確認をしました。岡本さんは援助を受けていたので、働こうが働かまいが収入は一緒です。本人もそのことを分かっていたと思いますが、社会に参画する仕事をしたいと希望されたので採用となりました。これから自分の「職業観」「人生観」を持っていただきたい。

しかし、経営者の立場としては、あまりにもボランティア的な発想だけでは仕事は続かないと思います。彼がポスティングをした結果、数人のお客さまからの問い合わせがあり、そして商品説明やお客様の獲得につながったことを「岡本さんがチラシを配ってくれたおかげで、お客さんが増えてきています」と、仕事の成果について話してあげます。経営ですからそのお金に見合った仕事をしてもらう、いわゆるwin-winの関係を重視していかないと、重荷になってお互いが嫌になってきます。労働力としての対価を払っている訳ですから、がんばっていたかないと。

もちろん広い心とか、利他の精神などは経営者も社員も持っている必要がありますが、あまりにも過度にボランティアとか優しさだけでなく、経済原則もそこに入れてお互いが関係を続けることが出来るということが大切だと思います。仕事を通して自分が何かしら役に立っていると実感でき、そのことで周りから誉められたり評価され、給料を手にすることが、働くことで生きる喜びを得ることができ、労働の意味だと思います。自分のできることがあって、社会に貢献できることがあるのは恵まれています。働くということを誇りに感じてこれからもがんばってもらいたいと思います。

窪田氏：たぶん岡本さんとは何かの縁があったんだと思います。私は受け入れた責任もありますが、彼が一人前に自立してパートから社員へステップアップして欲しいので、これからも応援していきたいと思っています。

そしてヤクルトスタッフにとって、本当に充実して楽しく仕事ができる、助け合いの心を持つ、「関わる人がすべて幸せになれるようなセンター」にできたらいいなと願います。



松山ヤクルト販売株式会社のご案内
〒790-0011 松山市千舟町1丁目4番地8

TEL : 089-941-8960 FAX : 089-945-0589
<http://www.matsuyama-yakult.co.jp>

愛媛県委託事業（平成21年度労働者の声発信事業）

発行 社団法人 愛媛県労働者福祉協議会

〒790-0066 松山市宮田町125番地 愛媛労福協会館3階

TEL : 089-946-2296 FAX : 089-947-5616

メールアドレス : e-roufuku@leo.e-catv.ne.jp